様式第22号(第96条関係)

事　故　報　告　書

<table>
<tr><td>事業の種類</td><td colspan="4">事業場の名称(建設業にあつては工事名併記のこと)</td><td>労働者数</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="4"></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">事業場の所在地</td><td colspan="3">発生場所</td></tr>
<tr><td colspan="3">(電話　　)</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="3">発生日時</td><td colspan="3">事故を発生した機械等の種類等</td></tr>
<tr><td colspan="3">年　月　日　時　分</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="3">構内下請事業の場合は親事業場の名称
建設業の場合は元方事業場の名称</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">事故の種類</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td rowspan="4">人的被害</td><td>区分</td><td>死亡</td><td>休業4日以上</td><td>休業1～3日</td><td>不休</td><td>計</td></tr>
<tr><td rowspan="2">事故発生事業場の被災労働者数
男</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>女</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>その他の被災者の概数</td><td colspan="5">(　　)</td></tr>
<tr><td rowspan="8">物的被害</td><td>区分</td><td colspan="2">名称、規模等</td><td>被害金額</td></tr>
<tr><td>建物</td><td colspan="2">m^2</td><td>円</td></tr>
<tr><td>その他の建設物</td><td colspan="2"></td><td>円</td></tr>
<tr><td>機械設備</td><td colspan="2"></td><td>円</td></tr>
<tr><td>原材料</td><td colspan="2"></td><td>円</td></tr>
<tr><td>製品</td><td colspan="2"></td><td>円</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="2"></td><td>円</td></tr>
<tr><td>合計</td><td colspan="2"></td><td>円</td></tr>
<tr><td colspan="2">事故の発生状況</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td colspan="2">事故の原因</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td colspan="2">事故の防止対策</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td colspan="2">参考事項</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td colspan="2">報告書作成者職氏名</td><td colspan="4"></td></tr>
</table>

年　　月　　日

労働基準監督署長殿　　事業者職氏名

備考

1　「事業の種類」の欄には、日本標準産業分類の中分類により記入すること。

2　「事故を発生した機械等の種類等」の欄には、事故発生の原因となつた次の機械等について、それぞれ次の事項を記入すること。

(1)　ボイラー及び圧力容器に係る事故については、ボイラー、第一種圧力容器、第二種圧力容器、小型ボイラー又は小型圧力容器のうち該当するもの。

(2)　クレーン等に係る事故については、クレーン等の種類、型式及びつり上げ荷重又は積載荷重。

(3)　ゴンドラに係る事故については、ゴンドラの種類、型式及び積載荷重。

3　「事故の種類」の欄には、火災、鎖の切断、ボイラーの破裂、クレーンの逸走、ゴンドラの落下等具体的に記入すること。

4　「その他の被災者の概数」の欄には、届出事業者の事業場の労働者以外の被災者の数を記入し、(　　)内には死亡者数を内数で記入すること。

5　「建物」の欄には構造及び面積、「機械設備」の欄には台数、「原材料」及び「製品」の欄にはその名称及び数量を記入すること。

6　「事故の防止対策」の欄には、事故の発生を防止するために今後実施する対策を記入すること。

7　「参考事項」の欄には、当該事故において参考になる事項を記入すること。

8　この様式に記載しきれない事項については、別紙に記載して添付すること。